第 15号　　2003年 8月20日発行

森ボラ通信

北海道森林ボランティア協会
札幌市中央区北1条東1丁目明治生命ビル
Tel 241-8155 Fax 241-8308 shinrin-b@pc.aaapc.co.jp

森林総研作業進行状況

7月24(木)20名、25(金)21名、2日間で延べ41名で作業しました。もう手馴れた作業になりまして、作業の進行が早くなり、2林班「り」小班を南側から攻めて、先端の一部は北の端に達しました。東に右折してもうひと頑張り。この小班はあと2日もあれば片付くと思われます。25日は早めに上がり、皆で撫順市に贈るエゾヤマザクラの種を採集しました。

民有林施業支援について

7月25日、加治さんと高野とで奈井江の民有林を見てきました。場所は東奈井江で高速道路に近く、町の中心部からも近いところでした。山主の希望は造林のための植樹です。現状は草薮で所々にヤナギ類が生えています。どんな樹種を植えたらよいのか、われわれ側から提案して、作業計画を作り、森林組合と折衝することまで任せられそうです。幹事会で検討します。

当別「フクロウの森」補植

8月1日(木)、18名参加。先に植えた苗が不完全腐蝕の肥料を食べたいキツネかタヌキに引き抜かれれたことで、補植と草刈をやりました。夏草の繁茂ぶりはアプローチ道路も草ボウボウで車が入れませんでした。植栽地と道路を除草し、補植をしました。一部に稚苗を移植しました。冬を越して無事に育つかを試すことになりました。

国際緑化推進センターのミャンマー研修募集

昨年、高野が参加しましたのと殆ど同じ内容と思われますミャンマーでの熱帯乾燥地の国際林業人育成研修の案内が届いています。個人負担費用は6万円となつていますが。内容を考慮しますと是非参参加することをお勧めします。15人と限定されています。、観光だけでも素晴らしい体験が出来ます。詳細は下記ホームページをご覧ください。
http://www.jifpro.or.jp/

澄川作業進行

8月5、6、7日、延べ56名で澄川の作業をしました。今回から沢を渡って左岸側に入りました。左岸は右岸より樹木が一回り大きく、相対的に面積当たりの本数も少ないことで、作業の進行が早く、この3日の作業で半分は片付きました。暑くない夏とはいうものの、真夏の森は作業を始めるとすぐに汗が噴き出します。サウナ風呂に行く必要がなくなります。ミズナラやクリの良い薪炭材が伐採されます。沢を越えて道路まで人力で搬出する労力はわれわれシニアボランティアにはありません。もったいなくも現場で腐らせるしかありません。8月28、29、30日の3日間作業を設定しています。ここでは全林の見落としをチェックして、整理し、最終日は昨年同様に不法投棄のゴミ掃除をやりましょう。したがって、9月、10月の澄川と有明第2は、全部森林総研に振替えます。

セブン・イレブン取材

この春に助成金をつけてくれました「セブン・イレブン緑の基金」から連絡が入りました。この秋にわが会を取材したいとのことでした。会誌で紹介してもらえます。大いにありがたいことなので、歓迎をしましょう。日程が確定しましたら連絡します。先方の日程がわれわれの作業日と重なるように調整することを考えています。

撫順市にエゾヤマザクラの種、約3000粒を托す

8月10日に札幌を発つ中島先生に先に採集した種3000粒と育苗方法について芝さんがまとめた説明書を托しました。先月訪問の際約束した第一回目の種子提供の実施です。今回はテスト的な位置付けです。実りの秋に採集できる種を出来るだけ沢山集める仕事の日程と場所を9月29、30に森林総研に追加設定しました。

10月5日　北海道育樹際　参加しましょう

今年の育樹際の日が決まりました。10月5日(日)です。場所は支笏湖湖畔とのことです。昨年は定山渓の国有林で13名が参加しました。作業参加申請書で参加希望をご連絡ください。

8月幹事会

8月12日、午後から7名参加。先に記述した奈井江民有林の扱いについては、取り組む方向で計画および見積をつくることになりました。有明第2の間伐は材を活用することを考えたいので、伐採時期、搬出方法を検討し、見通しがついてからにする方向となりました。澄川の一旦の完了。有明第2の間伐延期で10月、11月の作業計画は見直す必要が出てきました。札幌市と至急調整します。

湊代表幹事が快気され、参加。

森林総研特別作業の報告

8月11日～15日、連続5日間、森林総研の研究作業を支援しました。観測タワーのある6林班に入りました。約80年前に山火事があって、その跡に侵入したシラカバの多い広葉樹天然林で、胸高直径40～50cm、樹高25mクラスの樹木が林立した立派な森林です。初日の最初に倒したミズナラ、3日目のハリギリは、素性もよく、ゆくゆくは銘木市場に出せるほどのものでした。作業は1本の樹木を樹冠から1m間隔で輪切りにし、枝から葉と実を外して、葉、実、枝、幹とそれぞれ重量を現場で計測します。枝から葉を外す作業が大変で、最も人手がかかります。バカバカしいような作業でしたが、これこそ人手でしか出来ない作業でした。参加者達は黙々と頑張りました。時にはバカ話もしたりしながら。

参加者は初日から12、6、9、7、5名で、延べ39名でした。2日目は午後からにわか雨、それも半端でない雨量だったので、作業は中止。1時間以上も車の中で雨宿りしても止まず。ついに退却を余儀なくされました。4日目の午後は研究発表会のため、午後は中止。われわれも発表会に参加しました。
期間中、ミズナラ3、シラカバ、ハリギリそれぞれ1、計5本を処理しました。

8月23日　森林総研作業中止　代替作業は採種作業

この日に限り、土曜日につき、総研側の対応体制が出来ないとのことですので、23日は中止にします。20名の参加が予定されていました。以前に中止した1日と併せて総研森林での採種作業代替日を改めて9月29(月)、30(火)に設定しました。同封の9月追加申請で参加をお寄せください。

札幌工科専門学校演習支援

10月7日(火)、当別「フクロウの森」にて、札幌工科専門学校の学生の秋の演習が行われます。今回は間伐と枝打ちが主な演習課題です。湊先生の支援に酒井さん、高野が対応してきます。ついでに植えた苗の手入れもしてきます。

ニセコ炭焼き合宿について

9月18日、11名。24日8名の参加予約です。8名までと当初設定しましたが、寝床を他に求めることも出来ますので、追加を受付ます。中国が木炭の輸出を禁止するようです。年間5万ﾄﾝも日本に入ってきていたものが他に代替されます。東南アジアのマングローブ炭などが増産されるかもしれませんが、循環可能な国産森林生産物として炭焼き業が復活するかもしれません。森林ボランティアの事業になる可能性があります。勉強しておきましょう。

新入会員の紹介

小野寺正義	004-0867	清田区北野7条3丁目24-1	881-8045
西尾克彦	061-2283	南区藤野3条9丁目6-6	591-1918

中国２大炭鉱地帯（撫順市、大同市）の緑化

７月１６日から８月３日までの間に、２回中国を訪問しました。１回目は本協会の「撫順市炭鉱跡地の緑化事業の調査」７月１６日～２０日（酒井さん報告）、７月２７日～８月３日はNGO「緑の地球ネットワーク」が山西省大同市で行っている植林プロジェクトの現地視察でした。

撫順市、大同市とも中国有数の大炭鉱地です。撫順市は中国東北部（旧満州）の瀋陽市（札幌市の姉妹都市）の隣の市で、面積１０万平方ｋ㎡、人口２３０万人、大同市は北京市の西方３００ｋｍにあり、面積１４万平方ｋ㎡（岩手県と同じ）、人口２８０万人です。中国の行政区域は市の中に県があり、市は日本の県に相当し、農村部も含まれています。

両市とも日本とのかかわりは深い。撫順市の炭鉱の開発は戦前に日本が行っており、旧満州鉄道K,Kの建てたホテルや炭鉱のクラブが現在も使われています。大同市の炭鉱は日本が石炭資源の確保のためにいち早く占領したところです。また、大同市は北魏の都（３９８年から１００年間、平城京、人口１００万人）が置かれたところで、奈良の平城京の呼び名の元祖です。

両市を比較しての印象は、撫順市は水と緑に恵まれたところで、市街地の中心を流れる「渾河」（幅２００～３００ｍ）は澄んだ水が満々と流れており、アジア最大のダムがあり、山地の森林は人工林（カラマツ、モンゴリマツなど、３０年生程度）と広葉樹の若い２次林で、茶色のはげ山は見られませんでした。農地はトウモロコシ畑が多く、低地には水田がありおいしい米がとれるとのことです。

一方、大同市は黄土高原の東端に位置し、北京の水源地帯であるにもかかわらず主流の「桑干河」は、川幅が２００ｍくらいあるのに水の流れているのは５ｍ位で、山地にはほんの一部の若令の人工林を除きほとんど森林はなく、夏は畑の作物と山も草で緑に見えますが、春に見ると茶色一色の世界で半砂漠地帯です。（水源地がこのような状態なので、北京市は地下水に依存しており、年間1.5m位水位が低下しており、南の長江（揚子江）から水をもってくることが検討されています。）

この違いの最大の原因は雨量の違いです。撫順市の年間降水量７百数十ｍｍ、大同市のそれは４百ｍｍで、しかも夏から秋にかけて集中的に降り、１１月から翌年６月までは少ししか降らない。さらに大同市は２千年も前から森林伐採が続き、現在も段々畑、柴の採取、山羊の放牧などで自然の復元力をも抹殺しています。撫順とは異なり、市全域での森林造成が必要です。

撫順市は石炭産業の衰退に備えて、石油精製、IC産業などによる市の発展を考え、そのために市街地、炭鉱跡地の緑化による環境整備（「緑の撫順」）を進めています。大同市は石炭に替わる大きな産業は無く、農業も水不足で不作のことが多く、車で走って見て、一見して経済力の違いが判ります。

酒井さんの報告にもありますように、撫順市が考えている植林の候補地３区分の内、西露天掘跡地（東西 6.6km、南北２ｋｍ、深さ 200m の巨大な溝というよりは谷です。）の周辺と地盤沈下区域は造園的な手法ですでに森林公園づくりが始まっており、径が４～８ｃｍ位、高さ３～４ｍ位のポプラ、シラカンバ、ヤナギ、ニセアカシヤなどが植えられています。

ズリ捨て場（舎場）は東西２箇所にあり、そのうちの西舎場は１９４１年からの捨て場で、面積が1,750ha（巨大な丘）あって、すでに植林のための事業所がおかれ、２０００年から草本緑化が始まり、さらにそこに２０種、４０～５０万本の木本による植栽を行っているとのことでした。

植栽苗木は１ｍ余の樹高のもので、急いで成果を出すことを考えて大型苗木の植栽を行っていますが（中国はどこでもこの傾向があるようで、活着率が良くないことが少なくない）、水が少ないことと水の浸透が良すぎることが植林の障害になっているとのことでもあり、３０～４０ｃｍ程度の苗木を使った方が活着率も良く、経費も少なくてよいのに・・・と感じました。

地盤沈下区域については、全て埋め立てるのではなく、溜まった水を活かし、ビオトープとして子供達の自然に親しむ場として活用してはどうかとの提案も酒井さんから出されました。

今回は、撫順市の方は環境部門が対応してくれましたので話題になりませんでしたが、山地の方は良好な人工林もあって、まだ植栽可能地も沢山見られるのと、ロシヤや黒竜江省から原料を持ってきている製材工場団地もあるので、林業・林産業地としての発展も期待できると感じました。（棟　方）

撫順市出張報告書

期間；２００３・７・１６～20日

出張者；高野、酒井、棟方

受け入れ側；副市長　Mao Shao Hua(毛　紹華)――――プロジェクト全体窓口

環境保全局　局長　Li Da(李)　副局長　Lu(盧)

技師 Fan Xiao Feng(范)

指揮部　Chao(張)――――――――――――技術打ち合わせ窓口

外務部　副主任 Tan Gui Hong（譚　桂紅）――― コレポン窓口

通訳　　藩　聖飛(対外貿易経済合作局)

宿泊；中島　巌（北大名誉教授）アイケン工業株式会社顧問

案内；Ma Fang Tai(馬　方太)撫順高周波鋳造有限公司社長

新田　喜芳美　アイケン環境株式会社取締役

7月17日　植林候補地視察

No1 西露天堀跡地：１,３00ha、巨大な穴の周囲で植林が始まっている。

No2 地盤沈下地区：１,１00ha、坑内堀による沈下で住宅地が浸水、池が出来ている。

No3 ズリ山 1,700ha 石炭殻でできた丘。植林事務所もでき植林中。

チャイナネット記事 9/4/2002「撫順西露天炭坑を森林公園として再開発」より

遼寧省・撫順市にある西露天炭坑。採掘 88 年の歴史をもつアジア最大規模の露天掘り炭坑で今、環境整備が進められている。炭坑は将来、森林公園に生まれ変わる。

同炭坑は、東西 6.6 キロ、南北2キロ、深さ 200 メートル余りの大規模なもので、3ヵ所に採掘した岩石を集める堆積場がある。資源は枯渇しはじめていて、2007 年には閉山される予定。

7月18日　ヌルハチ(清朝初代皇帝)の生誕地、張作霖元帥林視察

東部地区はカラマツの植林地があり、黒龍江省などからのマツ材集積地。伐根工芸品市場もあり興味深い。カラマツ人工林に虫害が少々見られる。

7月19日　発電所排気対策、ホテル排水対策、ダム視察（アジア最大のダム）

遊覧船でアオサギの営巣地視察。ホテルにて淡水魚料理。トイレ以外このままエコツアーに良い。

この撫順市緑化プロジェクトは広大な計画で、とても当協会のみでの対応はたとえ助成金を獲得しても不可能で、道水産林務部、道造林協会（コンタクト中）だけでなく、友好市の夕張市などとも協働する必要がある。中国側の対応には旧満州鉄道、日本軍に対する補償的な考えは全くなく、資金要請もなく純粋な技術援助を求めていることを確信しました。